

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人発達支援ますと福島 発達支援センターますと		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 4日		～ 令和7年 3月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 6日		～ 令和7年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・乳児期から児童期に至る経験豊かな職員が療育に当たり、必ず記録を取っていることにより、発達のピラミッドを意識した取り組みへとつながっている。	・記録の活用 情報提供書の作成 モニタリングだけでなく、通院に合わせて情報提供書を作成する。	・現在は、情報提供書を使い、保護者への特性理解と支援の具体的な仕方を伝えたり、保護者がより深く子どもの特性を理解することに役立っている。通院先への説明は通園・保護者にお任せしているが、直接ご説明する機会を設けられるようになるようにしていきたい。
2	・当事業所の中でも各種発達検査を行うことができる。	・標準化されたエビデンスを参考にしてアセスメントを行い、できるだけ個人の経験だけに頼らない療育を心がけている。	・地域医療からも信頼される事業所となるべく、アセスメント力の向上と報告書等の記載内容を充実させていく。また、検査結果等が直接的な支援に役立つものとなるように研鑽を積んでいく。
3	・個人情報に配慮しながらも、事業所内だけでなく地域、視能訓練士・言語聴覚士・ヨガ講師(看護師)保健師などの資格を持つ人間が準スタッフとして療育やアセスメントに参加している。	・地域の中にある子育て支援施設・子どもの居場所スペースなどに積極的に出かけて、地域の子育て支援にかかわる方たちと交流を深めています。また、県外の子どもにかかわる専門職にも来てもらい、直接支援や間接的な支援(保護者への啓もう活動等)を行っています。	・今年度は1回、地域の子育て支援NPOと合同でピアノコンサートと作品展を行いました。こうした、地域の他の活動をしている人たちと協力して子どもたちのためになる活動をおこなうことで、地域全体のマンパワーを底上げしていけると考えています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	防災訓練の情報などが伝わりにくい。	計画的に防災訓練は実施しているが、日によって利用者が変わっていることや天候などに左右され、実際の避難ができずに終わることがあった。担当を決めて、行っていた『つもり』が結局は、保護者に伝わらないという結果になっている。	・年間の防災訓練計画を保護者にわかるように提示する。また、毎回の計画書をHUGの『活動記録』に入れることとする。
2	・個人情報についての徹底した管理	事業所内の学習室に相談室・事務スペースを併設しているため、面談の時にどうしてもそばにいる職員が聞くようになってしまう。	来年度より、同じ建物内の1室を面談・会議スペースとして借りようと考えている。
3	・きょうだい支援	計画の中では、きょうだい支援を土日などを使い、行う予定だったが、職員の勤務を増やすことができず、できないでいた。	来年度は土曜日の療育を行う予定。土曜日に関しては、保護者の送迎を基本として、利用者のきょうだいが一緒についてくることが可能であることにしたいと考える。また、今年度同様、茶話会の託児を行う際は、きょうだいの預かりも行う。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 一般社団法人発達支援ますと福島 発達支援センターますと

公表日 令和7年3月14日

利用児童数 9名 令和7年3月11日

回収数 8名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	1		1	・地域の施設も利用し、適宜環境整備されていると感じています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7			1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7			1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7			1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7			1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	3		1		放課後児童クラブとの交流は、療育プログラムと宿題をした後の交流となると難しいと感じることがありますが、その分地域の支援施設・公園にはできるだけ出かけるように心がけています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	8	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	1				
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	1					

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5			3		マニュアルは玄関に貼ってありますが、施設を訪れない保護者に周知する方法を早急に検討します。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7			1		定期的に避難訓練を行えるように計画していますが、保護者の方に十分に伝わっていないことは課題だと感じています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8					
	29	事業所の支援に満足していますか。	8					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	一般社団法人発達支援ますと福島 発達支援センターますと		公表日	令和7年 3月 14日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		放課後等デイは少人数を心がけているので十分なスペースを確保できていると考える。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		基準定員を満した配置をしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		お子さんの特性に合わせて、パーテーションやセンサーアイテムを使用している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・常に清潔な環境が保たれている。 ・パーテーションを使い、空間の使い分けをしている。 ・掃除・加湿器の管理を行なっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・学習室、プレイルーム、個室など子どもの活動に合わせて、使い分けができるようになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		職員間で話し合い改善を図っている。 基本的には、毎週水曜日の午後話し合いの時間を設けている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		茶話会を3か月ごとに開いている。その中で保護者の意見を直接お聞きする機会を設けている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の意見に対して、真摯に向き合い納得のいく仕事ができるように心掛けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者評価は受けていませんが、他の子育て支援団体とつながり、参考意見などを求めている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		2か月に1回のアドバイザーの高谷教授を招いてケース検討会をはじめ、それぞれの職員が受けたいと申し出のあった研修はできるだけ参加してもらえようとしている。研修の機会は十分に設けていると考える。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページで早い時期に公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		標準化された検査を利用して客観的なアセスメントを行っています。また、多職種の職員が残してある記録も大いに参考にしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保護者支援も大切ですが、『子どもの権利条約』内容を常に意識するように心がけている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		記録を書く際に計画内容に沿って書くように申し合わせて、実行されている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		とても大切にしています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域にわたり、支援内容が明記されています。基本となるものとして、ガイドラインの他に保育所保育指針と学習指導要領 自立活動編を使用しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行なっているか。	○		個別で支援プログラムを組んでいますが、朝の打ち合わせの場での確認でアドバイスを受け、検討する場を設けています。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		療育内容が固定化しないように特性などに合わせてプログラムを追加している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別療育とグループ活動はバランスよく配置するように心がけている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行なっているか。	○		打ち合わせを行なっているが、担当に負担が偏ることもある。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		事務室にいる職員同士では、情報や様子を共有できている。 ・毎朝、打ち合わせを行なっている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		業務の中で支援記録、各自検証の時間を必ず取っている。内部記録の中で改善するべき点があれば記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行なっているか。	○		計画に沿った記録をしていく中で担当者がまず、モニタリングを記入しそこで検証する流れを作っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行なっているか。	○		複数の組み合わせを意識している。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行なっているか。	○		選択をする機会を設けるように常に意識している。打ち合わせの中でもポイントとなる支援に上がることが多い。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		経験と知識を持ったものが参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		受診した際の情報を保護者からいただくこと、事前に情報提供書を渡すこと、各学校とは送迎時間と合わせてその日の利用児の様子などの申し送りを受けている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行なっているか。	○		行なっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		事業所が開設してから就学した児童に関してはしっかりと行うことができている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		高学年はいない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターがない。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		子育て支援施設に行なったときには交流があるが、学童保育は施設が狭く、遊びに行なったとしてもトラブルしか生まれないと判断。行なっていない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		自ら連絡して参加した。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回の『サービス提供記録』で写真付きで保護者に情報を伝え、コメントをいただいている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行なっているか。	○		今年度はペアレントトレーニングを1回とピアカウンセリング3回行なっている。ホームページを使い、啓蒙活動も行なっている。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行なっているか。	○		1時間以上の時間をかけて行なっている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもたちの言葉や思いを受け止める努力を常に行なっている。また、発達上のニーズには耳を傾けるように努力している。そのため、最善の利益を優先考慮していると考える。		

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		モニタリング→アセスメント→原案づくりという段階を保護者とともに丁寧に行なっている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行なっているか。	○		十分に行なっている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		茶話会の託児はきょうだいも受け入れている。その中での交流の場は設けている。また、茶話会の中で保護者同士の交流の場を必ず設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページは担当者を決めて、定期的に更新している。活動の様子もしっかりと伝えることができています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・面接の際、スペースがないために配慮が十分でないと感じることがある。 ・お子さんのことを伝えるラインでのやり取りなど十分に気を付けていきたい。	相談スペースを確保する必要があります。来年度同一施設内でそうしたスペースを準備する予定があります。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚優位、聴覚優位などの特性も踏まえながら配慮し行なっている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		ピアノコンサートなどを行い、地域の方に参加していただく機会を設け、その中でますます行なっている教材の紹介等も行なった。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルについては玄関に貼ってあり、ホームページでも公表している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行なっているか。	○		定期的に訓練を行う計画を立てている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		母子手帳のコピーをいただき、フェイスシートには健康上の情報を載せる欄を設けている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		行なっているが、現在のところおやつを提供するこの中にアレルギーのお子さんはいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画は作成しているが、今後より現場で浸透させていきたい。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約の際に実際のものをお見せしているが、十分とはいえない。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		しっかりと行なっている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止の研修を受けたものが伝授するように報告書を回覧、伝達している。	今後、どんな行動が虐待に当たるのかをみんなて話し合う機会を設けたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		事前に身体拘束の可能性のあるお子さんには、口頭で説明を行なっている。	計画にのせるには、少し書き方が難しいと感じている。	